AI起案時代を切り拓く文書検証AI「Deep Review」の知財活用ガイド

Googleが開発した「Deep Review」は、技術文書や特許明細書の論理的矛盾や根拠不足を自動点検する検証AI。
知財実務での効果的な活用手法とガバナンス上の注意点を解説。

構造的検証メカニズムと高い検出性能

4段階のエージェント型パイプラインで精密監査

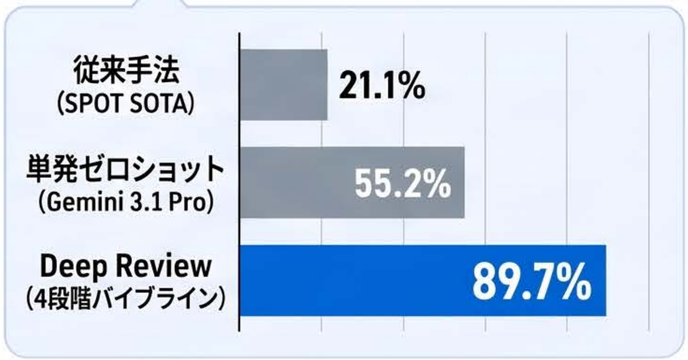
文書分割、資源配分、並列深層検証、外部照合の4工程で構成。





Deep Review SPOTベンチマーク エラー検出率を達成

単発LLM呼び出し（55.2%）や従来手法を圧倒する精度を実現。



約35〜44%の偽陽性に対応する「人間の精査」が必須

AIの指摘には的外れな内容も含まれるため、専門家による最終判断が必要。

知財実務における活用戦略と注意点

公開文献（無効資料調査・引用文献）での活用はリスクゼロ

競合特許や論文の論理破綻・数式ミスを安全かつ高速に抽出可能。



未出願発明は「1年間のサーバー保存」仕様に厳重注意

UI表示用にデータが保持されるため、自社セキュリティ規定の確認が必要。



単一ファイル制限を克服する事前結合ワークフロー



Gemini Notebook